

6年2組 道徳科学習指導案

授業者 宮嶋 淳子

1 主題構成表

主題名 まわりの人の支えに応えるには
資料名 黄熱病とのたたかい

■ 内容項目B 感謝

日々の生活が、家族や過去からの多くの人の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えること。

■ 価値の分析

- ・よりよい人間関係を築いていくためには、自分の生活がいろいろな人の努力や助けによって成り立っていることを自覚し、目に見えない人々の助けに心から感謝する気持ちが大切である。相手に対する尊敬と感謝の念が、自分も人々や公共のために役に立とうとする心情や態度を育てていく。
- ・新しく高学年に「家族や過去から多くの人の支え合いや助け合い」という言葉が追加された。発達段階として尊敬や感謝の念をまずは身近な家族に焦点を置いて考えさせ、その後、学年が上がるにつれて、今の生活の基礎を築いた先人にまで広げている。
- ・ここでは、一番身近に支えてくれている家族と高齢者福祉施設「あいりレー」で関わっている高齢者の方について考え、どのような思いで自分に接してくれているかを考えると共に、それに応えようとしていることもまた、家族の支えになって成り立っていることや、交流することが高齢者の方の支えになっていることに気づき、それに応えようという態度を育てるようにする。

■ 内容項目から見た児童の実態

- ・日常生活や学校生活が、自分1人の努力や行動で成り立っていないことは理解できている。
- ・自分の生活を支えてくれている仲間や家族に「ありがとう」と素直に言葉に表すことができる児童はいる一方で、なかなか言葉に表せない児童も多い。
- ・感謝の気持ちはもっているが、それをどう表現したらよいか分からず、積極的に行動できない児童も多い。
- ・自分の生活と直接関わっている人の支えがあることは分かっているが、それ以外の人にも支えられていることに気付いている児童は少ない。

(要因)

- ・思春期の時期とも重なり、分かっているが、素直に行動することに照れを感じている。
- ・自分のためにしてくれていることを「あたりまえ」と理解して、大きな支えになっていることや支え合っている存在であることに気付いていない。
- ・視野が狭く、現在の生活が先人が築いたものであることや、地域の人の支えがあるからだということについて、具体的に考えたことがない。

■ 資料の分析

黄熱病とのたたかい

- ・主人公の野口英世は、数々の苦難を乗り越え、世界を舞台に活躍する医学者になったが、そこに至るまでには数多くの支援者がいたこと、そしてその支えに応えようと必死に研究に取り組んできたことが分かる資料である。
- ・英世を懸命に支え続けた多くの人の思いに触れることで、児童は自身自身の生活もまた人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに気付くことができる。
- ・また、研究に打ち込み、懸命に努力する英世の姿を通して、世話になった人々に対する感謝の念と、それに応えようとする英世の強い思いを感じることができる。
- ・人々の支えに感謝して、自らそれに応えようとするためには、支え合って生きているということに気付くことが必要である。

■ ねらい

支えてくれる人の存在や、その人の思いを考えることが、自分自身の感謝の気持ちをより深くすることに気づき、自分のできることを進んで実践しようとする態度を育てる。

■ 展開の構想

- ・資料を読んで感想を交流して英世を支えた人々を整理することで、多くの人の支えがあったことを明らかにする。
- ・身体を壊してまで、研究に打ち込んだ英世の思いを想像して、支えてくれた人々にどのように応えていったかを知り、それが支え合いであることに気付かせる。
- ・あいりレーの方のお話を聞き、家族でなくても支え合う存在になっていることに気付かせ、それに応えるにはどんなことができるか考えさせる。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- 〔中心発問〕「英世はどんな気持ちでどんな応え方をしただろう。」という問いで英世の姿を通して、世話になった人々に対する感謝の念と、それに応えようとする英世の強い思いを感じることができるように、意見を構造的に板書にまとめる。
- 〔体験的な活動〕総合学習で訪問した高齢者福祉施設あいりレーで体験したことと関わらせ、横断的な指導をし、体験に基づいた主体的な課題解決をさせる。
- 〔学習形態〕高齢者福祉施設あいりレーの方のビデオレターで自分がしていることに感謝されていることを知り、それが自分の支えになっていることに気付かせ、互いに支え合っていきたいという意欲を高める。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 (補充 ・ 進化 ・ 統合)

総合「あいりレー訪問」→道徳科「黄熱病とのたたかい」→総合「あいりレー訪問」→行事「菊作り感謝の会」→行事「八幡ふれあい教育」→行事「6年生を送る会」支えてもらっている地域の人や家族に感謝して、それに応えようすることができる。また、それが相手の支えになっていることを実感し、支え合って生きているという考えを生み出す。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇支えてくれる人について話し合う。 ○「私たちの道徳」P88のリード文を読む。 ・「誰に支えられているだろうか。」 ・「感謝の気持ちを伝えているだろうか。」	・まず、リード文を読み、本時、自分の姿と関わらせながら考えていけるようにする。
展開 前段	◇資料「黄熱病とのたたかい」を読んで話し合う。 支えてくれる人の思いと、その思いに応えることについて考えよう。 ○英世はどんな人に支えられただろう。 ・母親－励まし ・小林栄先生－才能発見、援助 ・渡部鼎先生－医学を指導（左手を手術） ・血脇守之助－渡米の支援 ・フレクスナー博士－研究生活の支え ・多くの友人－借金 ◎英世はどんな気持ちで、どんな応え方をしただろう。 ・世界的研究を次々に発表（ノーベル賞候補） ←苦しむ人々を1人でも多く助けたい。 研究は1人ではできなかったからこそ支えてくれた人に恩返しをしたい。 ・世界一流の研究所へ入所 ←人々の期待に応えたい。 研究を続けて人々を助けたい。 ・熱心に黄熱病の研究をした ←黄熱病をなくしたい。 フレクスナー博士の期待に応えたい。 自分しかできないことだから、みんなの期待に応えたい。	・事前に野口英世の伝記を教室に置き、手に取りやすいようにしておく。 ・私たちの道徳 P93, 1 行目までを教師が範読し、英世を支えた人々を整理させる。 ・家族や友人など身近な人の支えだけではなく、数多くの支援者の支えについても気付かせる。 ・英世を支えた人々は、どんな気持ちだったのかにも気付かせる。 ・支え（行為）と思い、思いと応える（行為）の関係が理解しやすいように構造的な板書を提示する。 ・英世の世話になった人々に、懸命に応えようとする強い思いに着目させる。 【深めの発問】 ★自分の命をかけてまで、研究に打ち込んだのはどうしてだろう。 ・多くの命を救いたいという医学者としての使命感や責任感だけではなく、行為の裏にある自分を支えてくれた人達への感謝の気持ちが、研究に向かう力になっていたことに気付かせる。
展開 後段	○自分を支えてくれている人に自分はどんな気持ちでどんな応え方をしているだろう。 ・コーチの応援に感謝して、試合であきらめずに戦うことで応えている。 ・毎日見守ってくださる安全ボランティアの方に、気持ちのよいあいさつをすることで応えている。	・導入で使った「私たちの道徳」の写真を参考に振り返らせる。 ・家族以外の人の支えにも視野を広げさせる。
終末	◇支え合っている関係の存在がいらないか自分の生活を振り返り、話し合う。 ○あいりレーの方のビデオレターを見て、どう思ったか。この思いに自分は、どんな応え方ができると思うか。 ・授業で交流していただけたのに、こんなに楽しみにして喜んでもらったことに驚いたし、うれしかった。今後の交流は、もっと喜んでもらえるように遊びを工夫したいし、お話をもっとしたい。私にとっても楽しみだし、元気をもらった。	・あいりレーの方の6年生に対する感謝の気持ちが理解できるように、ビデオレターを見せる。 ・今までの交流後の振り返りカードの記述から、関わりの中で自分達がどんな気持ちになっていたか振り返らせる。 ・笑顔や感謝の言葉が、自分の支えになっていることに気付かせる。 ・あいりレーの方の思いに応えるために、これからの交流で自分に何ができるのかを考えさせる。 〈変容の見届け〉 ・自分の生活を振り返り、家族や地域の人など支えてもらっている人の気持ちを考え、支えてもらっていることに感謝して、自分のできることで応えようとする態度で生活する。

6年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
B 感謝	総合	あいりレー訪問		
	総合	菊作り		
	総合	車いす体験		
	行事	スクールフォーラム (ようこそ先輩)		
	道徳	黄熱病とのたたかい		
	日常	登下校の様子		
	日常	給食の様子		
	家庭	家族とのかかわり		
	地域	地域の方とのかかわり		

<2学期所見>

評価のしかた 視点 B 感謝

道徳の授業

- ・英世を支えてくれた人の思いや、それに応えるためにどんなことをしたのかを考えることができたか。
- ・自分が家族や地域の人に支えてもらっていることに気付き、自分のできることで応えようとすることができたか。

日常生活(登下校, 給食など)

- ・安全ボランティアや給食など, 日常に自分を支えてくれている人たちの存在や気持ちに気付き, 自分のできることで応えようとしていたか。